

# 気象の特徴と水害・土砂災害

## 気象の特徴

大雨をもたらす気象の特徴を紹介します。

資料提供：京都地方気象台

平成26年の8月豪雨災害は、たまたまではありません。

- 南海上から和歌山・四国間を通して、暖かく湿った空気が流れ込み、加古川沿いに雨雲が侵入してくる。
  - 北からと南からの風がぶつかり合う。
  - 盆地であり、熱雷が発生しやすい。
- など、福知山で大雨となる条件は様々あります。このあと、「熱雷」と「台風」について紹介します。

### 熱雷による大雨のパターン

熱雷とは、地表付近が日射で局部的に強く熱せられ、湿気を含んだ下層の空気が上昇して雷雲が発生し生じる雷雨です

### 京都に伝わる雷御三家

- 1 丹波太郎型** 中国山地から丹波高地で発生した雷雲が、上空の西よりの風によって福知山から京都市街地に流れ込みます。発生頻度は「高い」
- 2 山城次郎型** 奈良県付近で発生した雷雲が、上空の南よりの風によって京都市街地に流れ込みます。停滞する場合が多く、警報級の短時間強雨と激しい雷が特徴です。発生頻度は「並」。
- 3 比叡三郎型** 岐阜県から滋賀県で発生した雷雲が、上空の東よりの風によって京都市街地に流れ込みます。盛夏に太平洋高気圧が日本海へ軸を移した時の東風に流されます。ほとんどの場合、寒気を伴っているため、夜間でも突然発生し、短時間強雨や激しい雷をもたらします。発生頻度は「低い」。



### 熱雷の発生メカニズム(丹波太郎型)



### 台風の通過するコースと京都府への影響

<b>近畿直撃コース</b>  直撃する前に南東風で局地的な大雨になることがあります	<b>日本海通過コース</b>  台風が日本海を進む時にも南西風により局地的な大雨になることがあります	<b>太平洋コース(台風だけの時)</b>  台風の動きが遅いと要注意	<b>太平洋コース(台風+前線)</b> 
<b>広範囲で暴風と大雨</b> 暴風、大雨(土砂、浸水)、洪水警報 ・台風本体の雨雲がかなり、暴風を伴って広範囲で大雨となります。 ・大河川でも水位上昇 ・外水氾濫、内水氾濫、土砂災害に警戒	<b>強風と局地的な大雨</b> 大雨(土砂、浸水)、洪水警報 ・大阪湾から流れ込む暖湿流により局地的に雨雲が発達し大雨となります。 ・内水氾濫、土砂災害に警戒 ・強風に注意	<b>北部、南丹波・京丹波で大雨</b> 大雨(土砂、浸水)、洪水警報 ・台風へ吹き込む湿った気流により北部と南丹波・京丹波で雨雲が発達します。 ・大河川でも水位上昇 ・外水氾濫、内水氾濫、土砂災害に警戒	<b>広範囲で大雨</b> 大雨(土砂、浸水)、洪水警報 ・台風の周辺から流れ込む暖湿流により前線が活発となり、広範囲に雨雲が発達します。 ・長時間にわたって大雨 ・大河川でも水位上昇 ・外水氾濫、内水氾濫、土砂災害に警戒

## 水害・土砂災害

大雨により発生する災害です。

水害はどのようにしておこるのでしょうか？

**外水氾濫** 堤防や土手の決壊でおこる水害です



### 内水の種類

内水ハザードマップは 101、102ページへ

**内水氾濫** 支川の水が本川へ排水できなくなっておこる水害です



### 排水ポンプの運転調整(ポンプ排水を停止する場合)



### 土砂災害の種類とは？



### 土砂災害の前兆現象

こんな前兆現象を確認したら、すぐに逃げましょう！

